

◇ 実践活動記録

地域との連携を生かした教育の推進

ー伝統文化「出町子供歌舞伎」の学びを通してー

◇ はじめに



本校は、富山県砺波市の中心に位置し、校区には、全国的に有名な「となみチューリップフェア」の会場がある。また、220年間続いている「出町子供歌舞伎曳山」には、毎年、本校の子供が出演し、生き生きとした立ち回りを見せている。

しかし、近年は少子化の影響で、出演する子供の確保が難しくなっている。子供歌舞伎は、本校の教育理念である「節文」を学ぶよい機会にもなる。小学校の間に全ての子供が子供歌舞伎を体験することで、将来にわたって、この伝統文化を「出町の誇り」として

継承してくれることを願い、平成26年度より3年生が総合的な学習の時間で取り組んでいる。

◇ 活動の実際

1 「出町子供歌舞伎曳山祭り」と「出町子供歌舞伎曳山会館」の見学（4月29、30日）

出町子供歌舞伎曳山祭りは出町春季祭礼に合わせ、毎年4月29、30日に行われる。東・中町・西町の3町が1年ずつ持ち回りで曳山を出し、奉納する。今年の当番は東で、演目は「絵本太功記 十段目尼ヶ崎之段」などが披露された。

以前は、本校の子供が毎年出演する子供歌舞伎を学年全体で見に行っていたが、祭礼が休業日に行われるようになってからは、各家庭に県無形民族文化財に指定された出町子供歌舞伎曳山見学を呼びかけている。今年も、総合的な学習の時間で興味関心を高めた3年生の姿がたくさん見られた。

また、近くには、三基の曳山を中心に、さまざまな資料や衣装、道具類を展示公開している砺波市出町子供歌舞伎曳山会館もあり、そこでは出町子供歌舞伎をはじめ砺波地方の豊かな祭り文化が紹介され、1年を通して多くの子供たちが総合的な学習の時間等の調べ学習で訪れている。



【学年ごとに見学していた頃の様子】



【三基の曳山が並ぶ出町子供歌舞伎曳山会館】

2 子供歌舞伎（浄瑠璃、三味線）の体験（6月～7月）

6月8日（金）～9日（土）に開催された「となみ夜高まつり」が終わり、大人も子供も一息ついた6月中旬頃、かつてご自身も子供歌舞伎の舞台に立ち、長年にわたって出町子供歌舞伎を実際に指導されている地域の方々に来校いただき3年生の子供歌舞伎体験を始めた。三味線の班と浄瑠璃の班に分かれて一通り体験した。

《浄瑠璃を体験して、思ったことや感じたこと》



じょうるりを体けんして、声を高くすることを心がけたけど、やってみたらむずかしいんだなあと思いました。それに、ずっと正さをしていたら足がいたくなりました。

言葉が早くておいつけなかったけど、こんどはすらすら言えるようにがんばります。



高畠さんは、「東西東西」のところを「とざい、と～ざ～い～」とのぼして言ったり、ふつうの声とちょっとちがう声で言ったりしていました。

じょうるりは、かわった言葉もつかっているし、かわった言い方で言うところがむずかしいかったです。高畠さんのように、本当みたいな声では言えないかもしれないけどがんばりたいです。

《三味線を体験して、思ったことや感じたこと》



三味線をはじめてさわったので、すごくきんちょうしましたが、ドキドキワクワクもしました。

3番など、番号があることを知ってびっくりしました。糸の太さによって、あんなに音が変わるのですね。

これからも三味線がやってみたくくなりました。



わたしは3本目の糸をひきました。おだやかな気もちにもなったし、鳥のなき声みたいで、へんな気もちにもなりました。つぎは1本目の糸や2本目の糸もひいて、ぜんぶのねいろをきいてみたいです。

三味線はじゅんびやあとかたづけも、思ったより長い時間がかかってたいへんでした。

3 学習発表会での子供歌舞伎の発表（10月14日）

子供たちは、出町子供歌舞伎の歴史を調べたり、実際に体験したりする過程で、学習発表会で自分たちも演じたいという意欲を高めた。そして、発表会に向けて、地域の人たちから指導を受けながら練習を重ねる中で、少しずつ独特の言い回しや声の出し方に慣れ、三味線の演奏も上達していった。発表会当日には、皆自信をもって発表し、観客から拍手喝采を得ることができた。



【絵本太功記「六方」の練習より】

《学習発表会 3年「未来へつなぐ出町の伝統」より》

<口上より>東西東西、実り豊かな砺波野の、ゆかりも深き学舎で、演じます狂言の外題、絵本太功記十段目、二百二十年の歴史ある出町子供歌舞伎、親から子、子から孫へと受け継がれ、出町に伝わる宝にござります。このすばらしさと伝統を伝えたいと、浄瑠璃・三味線、一所懸命にあい努めますれば、御目まだるき所はご容赦あって、良き所は、良〜き所は、拍手喝采なもってお楽しみいただきますよう、お願い申し上げます。



【東西東西（とざい、と〜ざい）】



【演じますは絵本太功記十段目】



【まずはいよいよ光秀六方の場】



【又も聞こゆる人馬の物音】



【光秀 突っ立ち上がり】



【すね木松ヶ枝 踏みしめて】



【スクイ ハジク（ヨイ）】



【夜高太鼓も登場だ！】

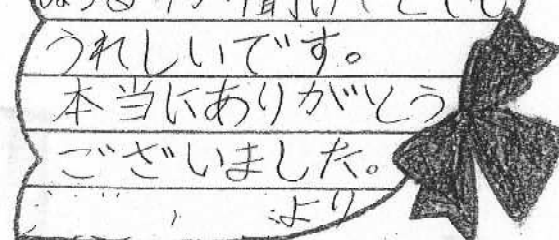


【よいやさ！よいやさ！】

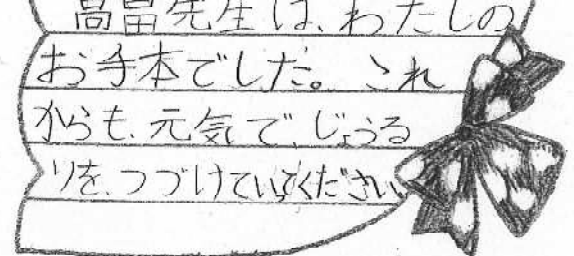
《子供たちから、歌舞伎を指導してくださった方々への手紙より》



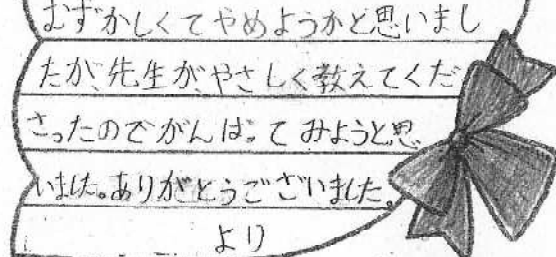
高畠先生へ
高畠先生は
六方がどうやっ
たら強そうに見え
るかなどいろいろな
ことを教えてくださ
りありがとうございます。
高畠先生の本ものの
じょうりが聞けてとても
うれしいです。
本当にありがとう
ございました。
より



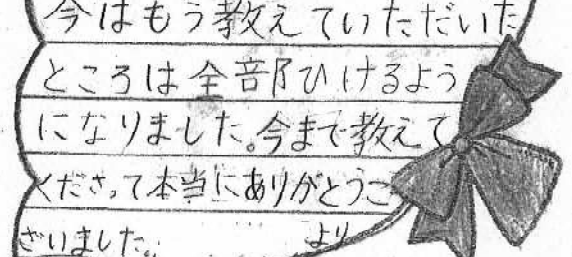

高畠先生へ
じょうりを教え
てくださりありがとうご
さいました。わたしは高畠
先生がていねいにやさしく教
えてくださったおかげで、学期
中に、こうじょうとじょうりをお
ぼえることができました。
高畠先生はわたしの
お手本でした。これ
からも元気でじょう
りをつづけてください。
より




松村先生へ
わたしは松村先生
に三味線を教えてくだ
さったのでとても三味線のこと
がすきになりました。また学
習発表会がたいせうでした。
なのでとてもかんしして
います。たいけんでは
おもしろくてやめようかと思
いましたが先生がやさしく教
えてくださったのでかんは
ておもうと思います。
本当にありがとうございました。
より




本田先生へ
今までたくさん三
味線を教えてくだ
さりありがとうございます。
わたしはさい
しょに三味線を一本けん
したときは、「どんな物な
のかな」と思っていたけれど
今はもう教えていただいた
ところは全部ひけるよう
になりました。今まで教えて
くださり本当にありがとう
ございました。
より



《学習発表会で子供歌舞伎の演技を参観した保護者の感想》

出町小学校学習発表会 3年 子供歌舞伎「絵本太功記 十段目 尼ヶ崎之段」保護者の感想より

総合的な学習で地域の学習に取り組む。その中で
出町地区の 出町子供歌舞伎を学習発表会に
取り組む取り組みは、地域の伝統を継承する
という子供の意識を高める成果がある。と思う
ます。地域の伝統文化は 子供歌舞伎に
表れる地域、地味な地域関係なく取り組む
という意義深い学習であったと感じました。と
新しい事に目と奪われがちで可い。...見ても大抵
子供歌舞伎の口上。浄瑠璃の練習。ステージを通り
自分の役割を果たし、友達と協力し一体感を味わって
自信につながったと思われ、指導者がとてもよかった。

3年生は、子供歌舞伎でしたが、すごく良かった。出町地区に伝わる伝統
芸能を一学期から授業で聞かせて頂き、その出町を素晴らしいと感じました。
毎年3年生が取り組むのいいと思う。またこの学習を通して、地域の
文化を継承していき、良い結果につながると思います。ありがとうございました。
1年生は、くみ中もとてもびびり、楽しそうに演じていて、可愛かったです。場所
移動などもとても上手で、感心しました。
高学年の子が会場の外で、あいさつしたり話したりしている姿が、すごくよ
かったです。

大人にとっても難しい歌舞伎という課題に一生懸命取り組んだ。
先生方、指導者の皆さん、子どもたちに敬意を表したいです。

毎年3年生は、テーマが「砺波の伝統文化」を採用されて
ることが多く、真面目すぎる内容に関心がなかなか湧かず...
しかし今回、私達親子にとってこの発表が「伝統文化」とも関係
に直に接する貴重な(もしは3年生の?)学習だったと思
いました。

これを機に、今後は砺波の伝統文化を親しみながら応援し
たいと思います。

とても発表ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

子供歌舞伎、最初の口上はかなり長いですが
全員が声を揃えてハキキと言う姿は、おれ感動でした!!
言い回し、見栄をきるポーズも難しかったように、上手に決まっています。
観ていて鳥肌が立つほどです。

最初の口上、練習、大変だったと思います。子供達も普段の生活
で練習している伝統芸能にふれることが出来た経験だったと思
います。

5年生の発表は、元気がよく良かったです。
演技の間に、アタマがふらふら、合の手で観る側としては
もと面白く観られるかな...と思います。

4 「となみ食彩ふれあい市」への出演(11月25日)

11月25日(日)、砺波商工会議所からの依頼で、恒例の「となみ食彩ふれあい市」
に参加した。子供たちは、今度は地域の人にも学習発表会の演技を見てもらおうと、
砺波駅前広場で夜高や子供歌舞伎を披露した。手作りの行燈やクイズもつくって雰
囲気を盛り上げた。練習の成果を出し、どの子供も自信をもって堂々と発表し、こ
こでも拍手喝采を得ることができた。



演技の様子(動画)



◇ 成果と課題

地域の伝統を調べ、さらに実際に演じてみることで、子供たちは地域の伝統のすばらしさ、演じる楽しさを味わうことができた。また、指導して下さる方々と触れ合うことで、伝統を守る人たちの願いに気付き、地域の文化や伝統を大切にしていこうとする意欲を高めることができた。さらに、表情豊かに表現したり、大きな声で演じたりするなど、表現する力を身に付けることができた。

一方、学校では、新学習指導要領の全面実施に向け、外国語科や特別の教科 道徳の教育内容の充実や英語の授業時数確保のためのカリキュラム・マネジメントが求められるなど、学級担任が落ち着いて「ふるさと学習」に時間を注げない現状があった。そんな中、本実践は、時間外勤務も厭わない本校教員の献身的な働きによって支えられてきた。このような状況をどう打開しながら、教育効果を上げていくのかが今後の課題である。

◇ おわりに

今、教育現場では、総合的な学習の時間について、文科省が土・日や夏休みの学校外の活動を、年間授業時数の四分の一程度まで正式な授業とする方針を固めたことで、校外の活動が「総合的な学習」に都合よく読み替えられ、これまでふるさとの伝統文化を生かした学習を推進してきた総合的な学習の時間の形骸化が進むのではないかと危惧する声がある。しかし、一方では、休日の学校外での活動を授業にできることは、家庭や地域の資源や教育力を生かした、より子供に生きて働くカリキュラムを開発するチャンスであるとも言える。

地域の特色や地域人材を教育活動に取り入れ、指導に生かすことは、伝統文化を理解し地域を愛する子供たちを育てる上で大変有効である。今後も、子供歌舞伎等の伝統文化を題材にしたカリキュラム開発に努め、地域の方々とともに、地域を愛する子供たちを育てていきたいと考えている。